



2027年3月期 第1四半期決算説明資料

FY2027 Q1 Financial Results Presentation

2026.8.10

【Contents】

【2027年3月期 第1四半期決算説明資料】

01.	エグゼクティブサマリー	P03
02.	2027年3月期 第1四半期連結決算概要	P05
03.	2027年3月期 通期連結業績予想	P10
04.	事業セグメント別概況	P13
05.	その他の資料	P31

【参考資料】

01.	会社概要・沿革等	P36
02.	事業セグメント及びグループ会社紹介	P39
03.	その他（サステナビリティ、財務情報、株式情報）	P40

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円にて表示しております。

エグゼクティブサマリー Executive Summary

01

売上高・各段階利益ともに前年同期比で大幅な増収増益を達成
メモリ事業の急拡大とHPCの好調により、1Qとして過去最高の業績を記録

売上高

10,866百万円

(前年同四半期比 + 148.5%)

- 生成AI需要拡大に伴うメモリ価格上昇・急拡大が牽引し、前年同期比約2.5倍の大幅増収を達成

営業利益

440百万円

(前年同四半期比 + 333.8%)

- 通信建設テックの季節的過渡期を吸収し、メモリ事業の大幅増益とHPC事業の順調な拡大が全体を強力に牽引

【参考】

EPS(1株当たり四半期純利益)

28.82円

(前年同四半期比 + 311.7%/
前年同四半期7.00円)

- メモリ事業の大幅増益等により最終利益が拡大し、1株当たり四半期純利益（EPS）が前年同期の約4.1倍へ飛躍的に向上

2027年3月期 第1四半期連結決算概要

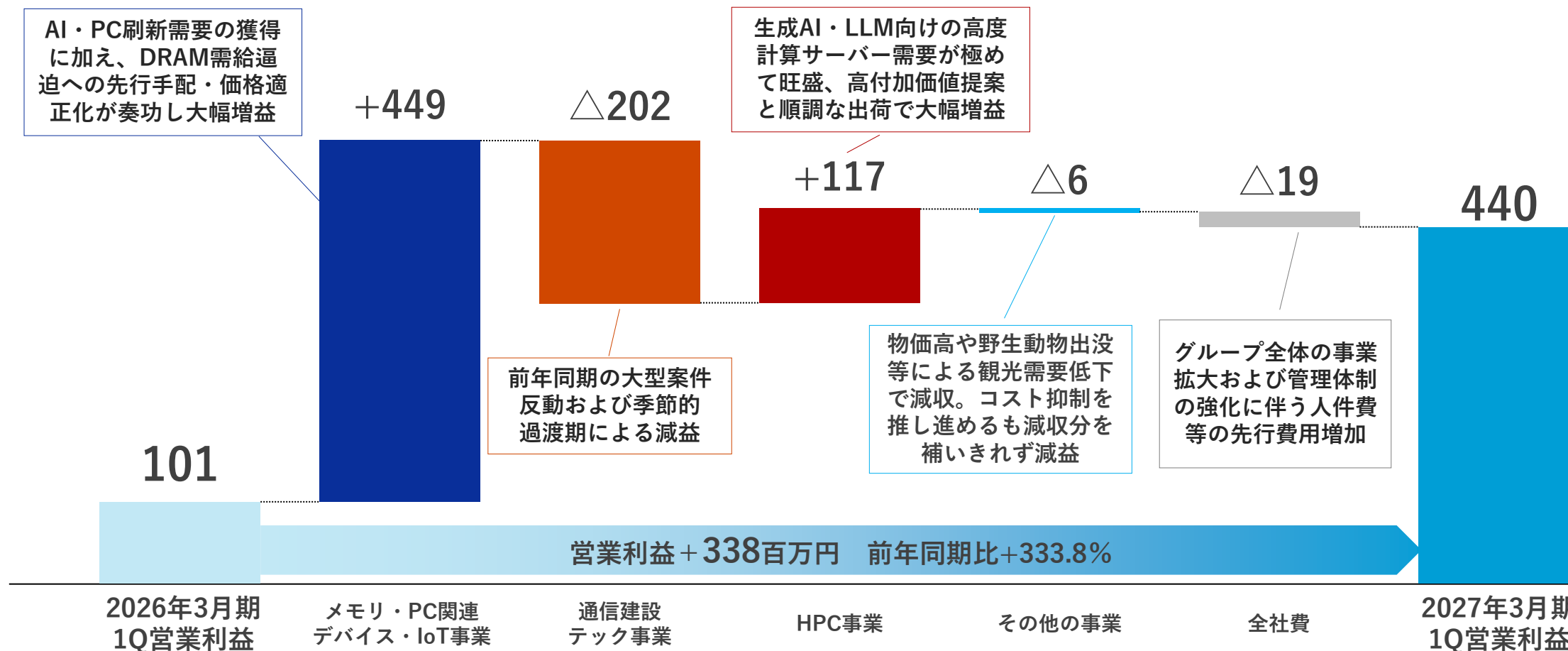
FY2027 Q1 Financial Results Summary

02

メモリ事業の大幅増益とHPC事業の好調により収益規模が大幅に拡大
売上高は前年同期比+148.5%、各段階利益も4倍超となり全指標で過去最高を大幅更新

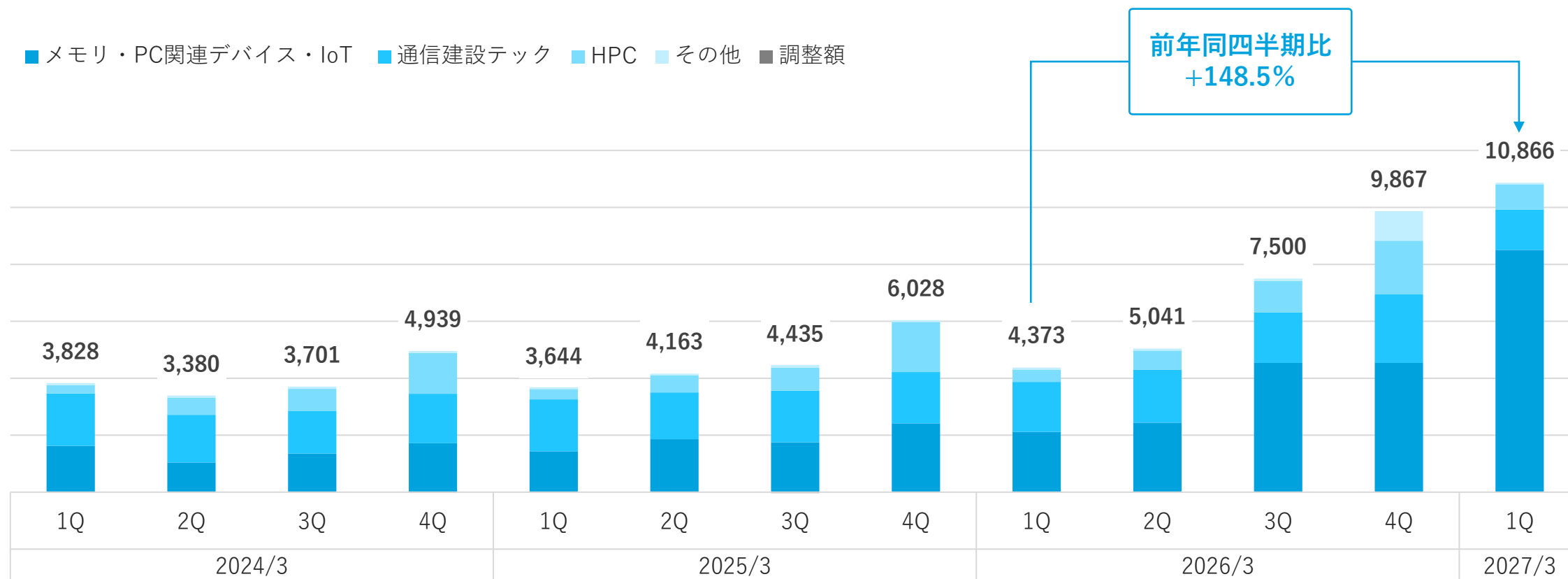
	2026年3月期 1Q実績	2027年3月期 1Q実績	前期比 増減率	参考	2026年3月期 通期実績
売上高	4,373	10,866	+148.5%	売上高	26,782
営業利益	101	440	+333.8%	営業利益	1,290
経常利益	99	449	+353.8%	経常利益	1,372
親会社株主に帰属 する四半期純利益	64	264	+311.4%	親会社株主に帰属 する当期純利益	883
一株当たり 四半期純利益	7.00円	28.82円		一株当たり 当期純利益	96.14円

メモリ・PC関連事業の躍進とHPC事業の堅調な拡大が全体を強力に牽引
 通信建設テックの季節要因を吸収し、営業利益は前年同期比+333.8%と飛躍的に増加



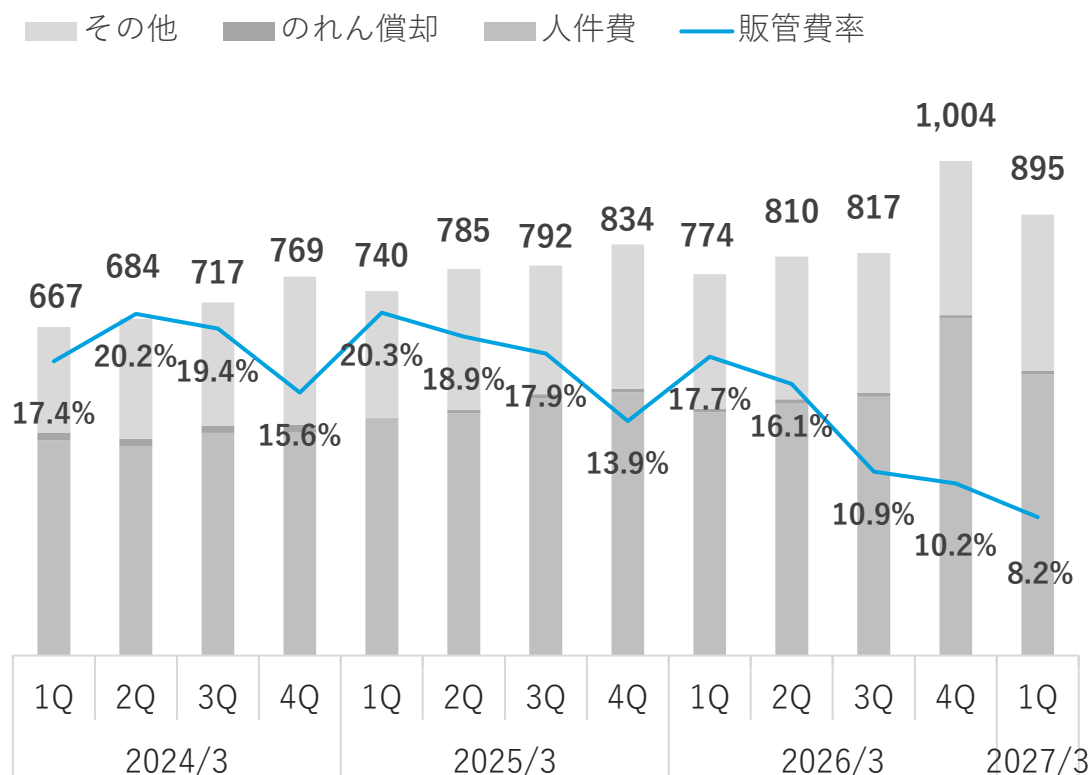
AI需要と大口顧客の先行手配を取り込んだメモリ事業およびHPC事業の伸長により四半期売上高が大きく拡大
グループ連結売上高は前年同期比+148.5%となる10,866百万円に達し、過去最高水準を大幅更新

■ メモリ・PC関連デバイス・IoT ■ 通信建設テック ■ HPC ■ その他 ■ 調整額

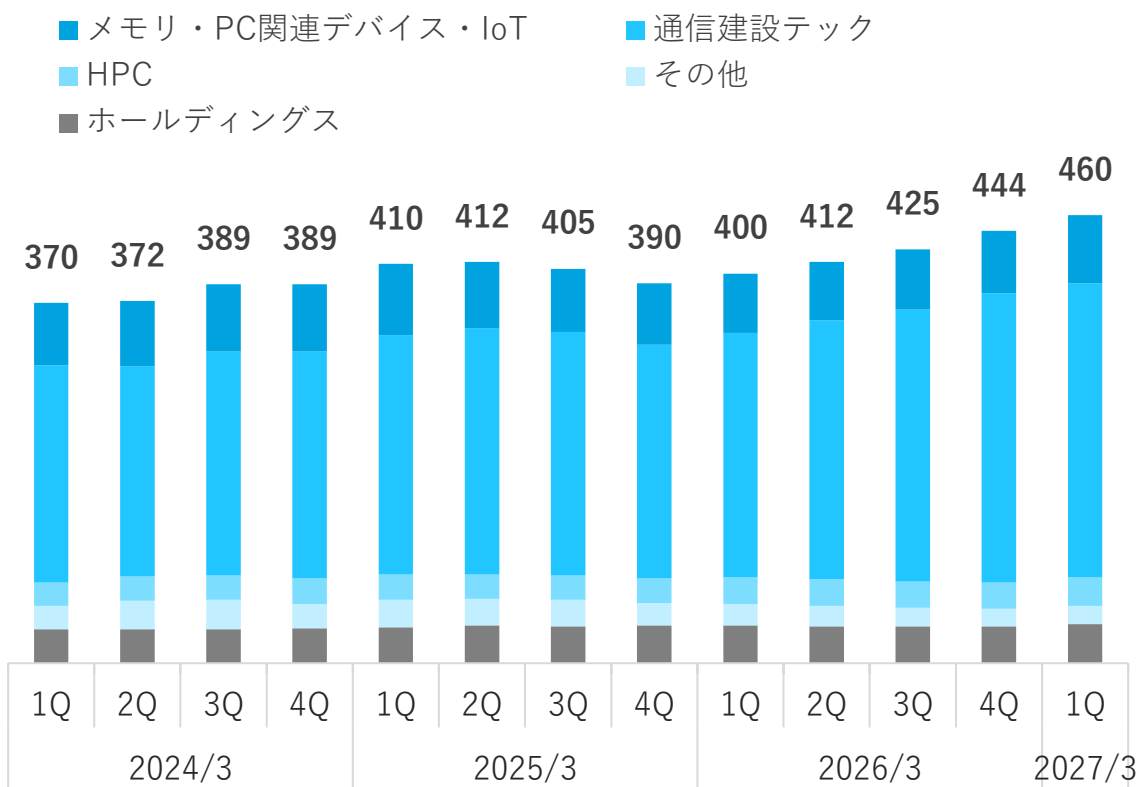


将来に向けた賃上げや人材採用・体制強化等の投資を継続的に実施
当四半期は売上高の急増に伴い、売上高販管費率は8.2%（前年同期比△9.5pt）にて推移

販売費及び一般管理費（百万円）



役職員数（人）



2027年3月期 通期連結業績予想

FY2027 Consolidated Earnings Forecast

03

2027年3月期の業績予想について

当期（2027年3月期）の経営環境は、生成AI向けの先端投資が継続する一方、メモリ市場においては、主要メーカーの生産体制の変化に伴う足元の需給逼迫状況や価格動向が今後どのように推移するか、慎重に見極める必要があります。また、地政学リスクに伴う各種コスト（仕入・輸送等）の変動や、急激な為替変動など、当社の業績に影響を与える不確定要素が多数存在しております。現時点において、これらの影響を合理的に数値化し、適切な予想数値を算出することは困難であるため、当期の通期連結業績予想は「未定」とさせていただきます。

引き続き成長領域への注力とコスト最適化により企業価値向上に努め、業績予想は合理的な算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

2027年3月期のグループ全体及び各事業セグメント毎の方針・施策については、次ページをご参照ください。



メモリ・PC関連デバイス・IoT



通信建設テック



HPC(高性能科学技術計算機)



その他（旅館・不動産事業）

Diamond pets & resort

- 収益構造の質的転換と高収益化の実現：グループ横断で内製化やストック化を推進し、市況や外部環境に依存しない強固な体質を構築
- 成長市場・新規領域の開拓：生成AI需要や再生エネルギー関連などの成長領域へ戦略的に投資し、次代を担う新たな収益の柱を確立
- グループ連携によるシナジー最大化：各事業会社が持つ技術や顧客基盤の活用を加速させ、グループ一体で提供価値と競争力を底上げ

- 高付加価値化による収益強化：AI・サーバー向け製品の拡販による、市況に依存しない安定的な黒字体質の構築
- エッジAI展開とストック化：「Solist-AI」による市場開拓と、継続的なストック収益基盤（ビジネス）の確立
- 法規制対応と開発体制の内製化：CRA対応製品の拡販と、SES人材の自社エンジニア化を通じた開発力・収益性向上

- 事業領域の拡大とストック化：通信建設事業・再エネ事業等の既存事業と『BuddyQr』等ストック事業のシェア拡大
- 人的基盤の強化と内製化の推進：積極採用・M&Aによる供給力増強と、自社施工の強化を通じた原価圧縮・生産性向上
- 営業力強化と地産地消モデル構築：デジタルマーケティングによる需要喚起と、各営業所を軸とした地産地消モデルの推進

- 高収益セグメントへのターゲット絞り込み：潤沢な予算を持つ上位アカデミックや優良企業に特化し、価格競争を回避
- 先行投資の回収とCF重視の経営：確保済みの先行在庫を確実に利益へ転換しつつ、次なる部材確保で納期優位性を維持
- 高付加価値なシステム提案力の強化：生成AI等の高度な研究開発ニーズに対し、最適な機材選定と技術支援で差別化を推進

- 「絆」ブランド強化と集客力の向上：ペット参加型イベントの定期開催やSNSでの発信強化を通じたブランド強化
- 接客・サービス品質の継続的な向上：人材の増員や競合視察を通じた、従業員の接客およびサービスレベルの底上げ
- 体験価値を高める戦略的な設備投資：客室の改装や館内インフラ改修による顧客満足度の向上
- 不動産事業としての取組み：市況を見極めながら、継続的に案件情報の収集を続け、収益貢献を目指す

事業セグメント別概況

Overview by Business Segment



AKIBA HOLDINGS

メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック

株式会社バディネット
株式会社ブランチテクノ通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）
※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併H P C
（高性能科学技術計算機）

株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

連結

売上高 10,866百万円（前年比+148.5%）

営業利益 440百万円（前年比+333.8%）

メモリ・PC関連 デバイス・IoT事業

売上高 **8,509**百万円
（前年比+301.8%）

営業利益 **455**百万円
（前年比 約81倍）

※前年同四半期の営業利益：5百万円

- ・ AI・法人需要を捕捉するとともに、大口顧客の先行的な在庫確保と適切な価格適正化により大幅増収増益
- ・ 為替・仕入コスト等の不透明感はあるが、IoTの大型パイプラインを背景に2Q以降も堅調な推移を見込む

通信建設テック事業

売上高 **1,413**百万円
（前年比△19.3%）

営業利益 **△168**百万円
（前年比－%）

※前年同四半期の営業利益：33百万円

- ・ 工事検収の季節的過渡期や前期4Q反動減に加え、体制強化に向けた人材・拠点等の先行投資費用が影響
- ・ 再エネ案件等の受注は引き続き堅調に推移しており、業績は下期偏重を見込む

HPC事業

売上高 **888**百万円
（前年比+104.1%）

営業利益 **154**百万円
（前年比+317.6%）

- ・ 生成AI需要を取り込み大型案件を獲得。部材高騰下での先行確保と厳格な納期トラッキングにより、大幅な増収増益
- ・ 学会・展示会での顧客基盤強化や協業を推進し、豊富な受注残を背景に2Q以降も高水準な成長を維持する見通し

その他の事業 （旅館・不動産）

売上高 **57**百万円
（前年比△15.2%）

営業利益 **△8**百万円
（前年比－%）

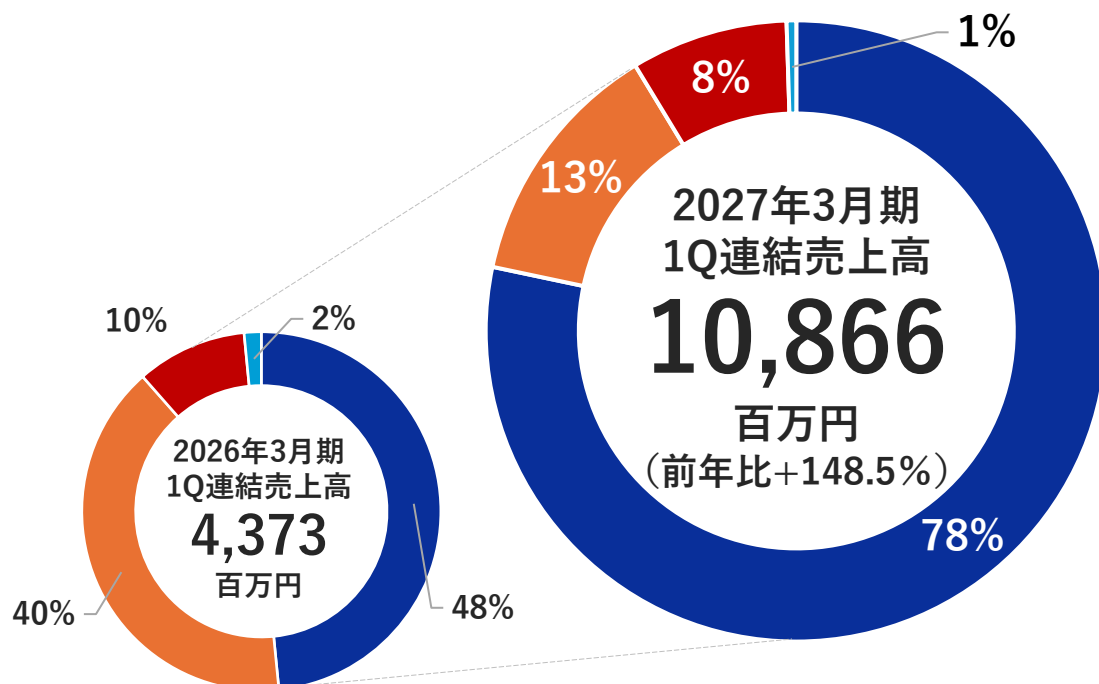
※前年同四半期の営業利益：△1百万円

- ・ 地域的な観光需要低下や野生動物出没等の影響による集客減が響き、コスト抑制に努めるも減収により減益
- ・ 客室リニューアルや庭園管理等の設備拡充による体験価値向上と、Webマーケティング強化等の施策を着実に推進

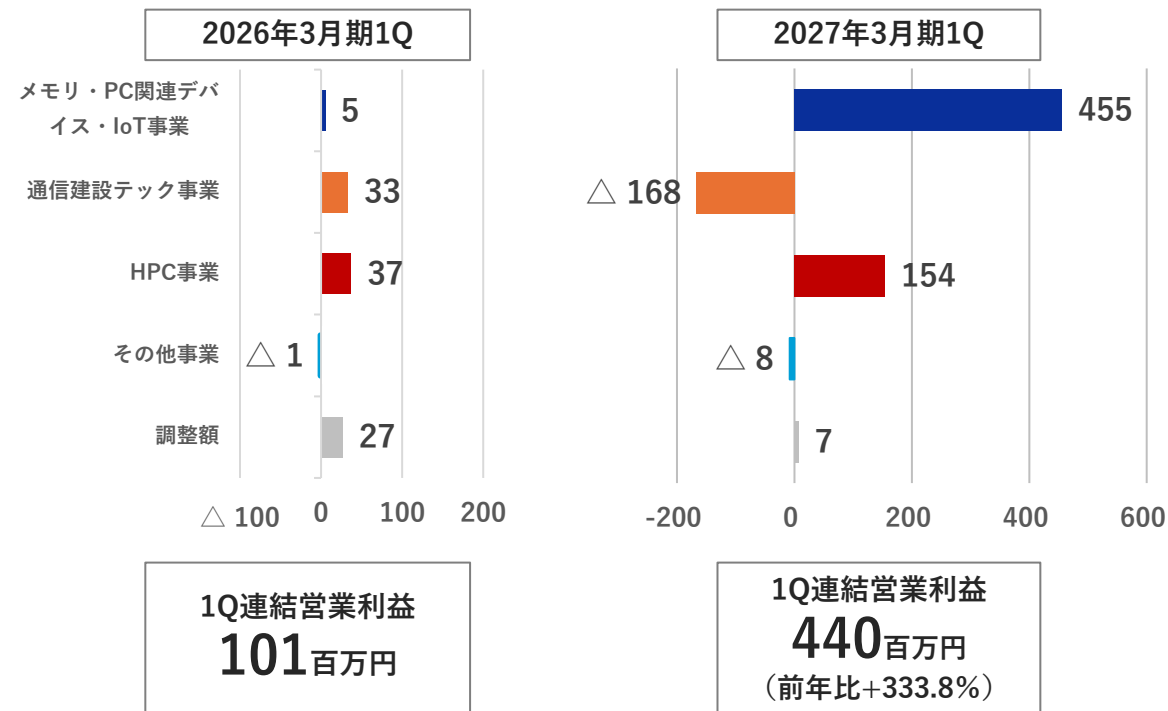
※各事業セグメントの利益金額には全社費用等の調整額7百万円を含んでおりません。

売上高は大口顧客の先行手配を確実に取り込んだメモリ事業が全体の約8割を占める
営業利益は、メモリ・HPC事業が大幅増益を達成し、グループ全体の収益を大きく底上げ

セグメント別売上高構成比



セグメント別営業利益比較

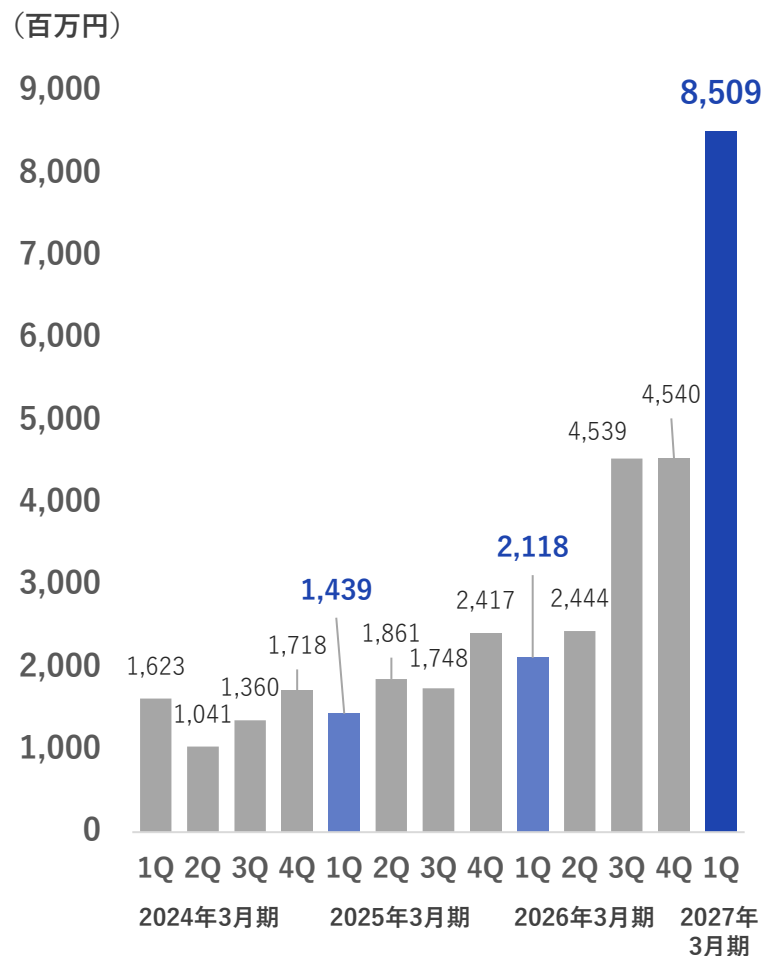


メモリ・PC関連デバイス・IoT事業 通信建設テック事業 HPC事業 その他の事業 調整額

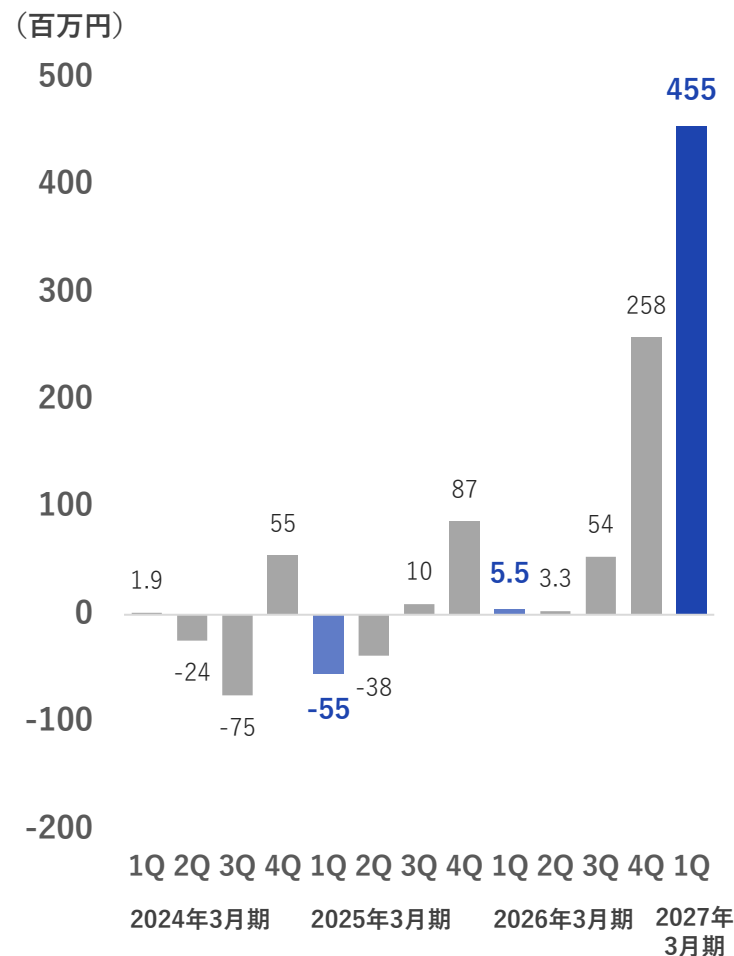
事業セグメント別概況ーメモリ・PC関連デバイス・IoT事業ー Overview by Business Segment

04-1

■四半期別売上高推移



■四半期別営業利益推移



2027年3月期1Q業績

売上高

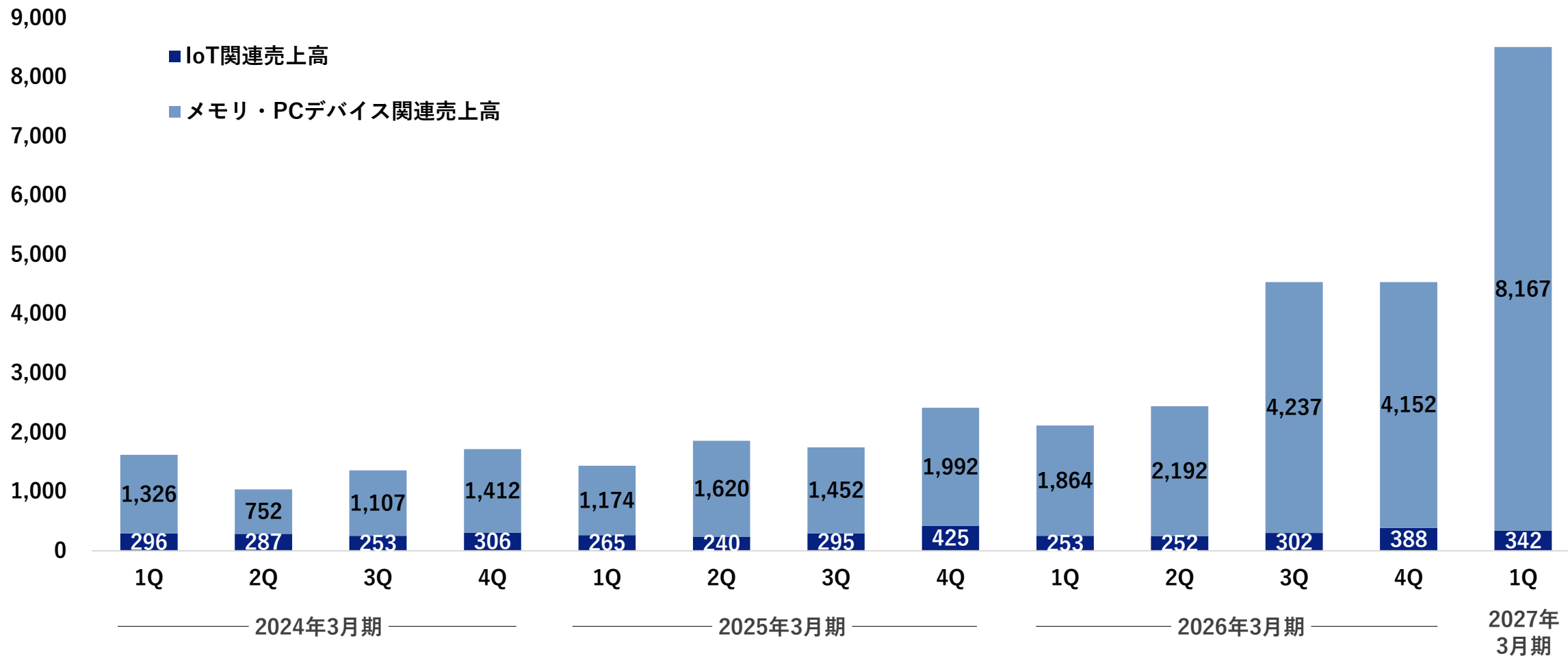
8,509百万円
(前年同期比 + 301.8%)

営業利益

455百万円
(前年同期比 約81倍)
※前年同四半期の営業利益：5百万円

- 生成AI向けデータセンター需要の急拡大や法人向け設備投資の継続に加え、部材需給ひっ迫による販売単価の上昇傾向が追い風となり、売上高が大幅に拡大
- 強固な調達網を生かした先行確保により特定顧客の大型案件を獲得。タイムリーな販売価格の適正化や在庫年齢評価損の抑制等を徹底し、売上の伸びを大幅に上回る利益成長を実現
- IoT事業における一部製品のEOL等に伴う代替需要を着実に取り込み順調に推移。エッジAI搭載端末や予兆保全PoCの推進に加え、日欧の最新セキュリティ規制（CRA/JC-STAR）に対応した高付加価値案件を推進
- 当面は部材価格高騰・販売単価上昇による増収効果が見込まれる一方、適切な価格コントロールと厳格な在庫運用により利益確保を目指す

IoT事業の堅調な推移に加え、活況なメモリ市場と大口顧客の先行仕入によりメモリ事業が急拡大
2Q以降も堅調な需要の継続が見込まれ、セグメント全体の順調な業績推移を見込む



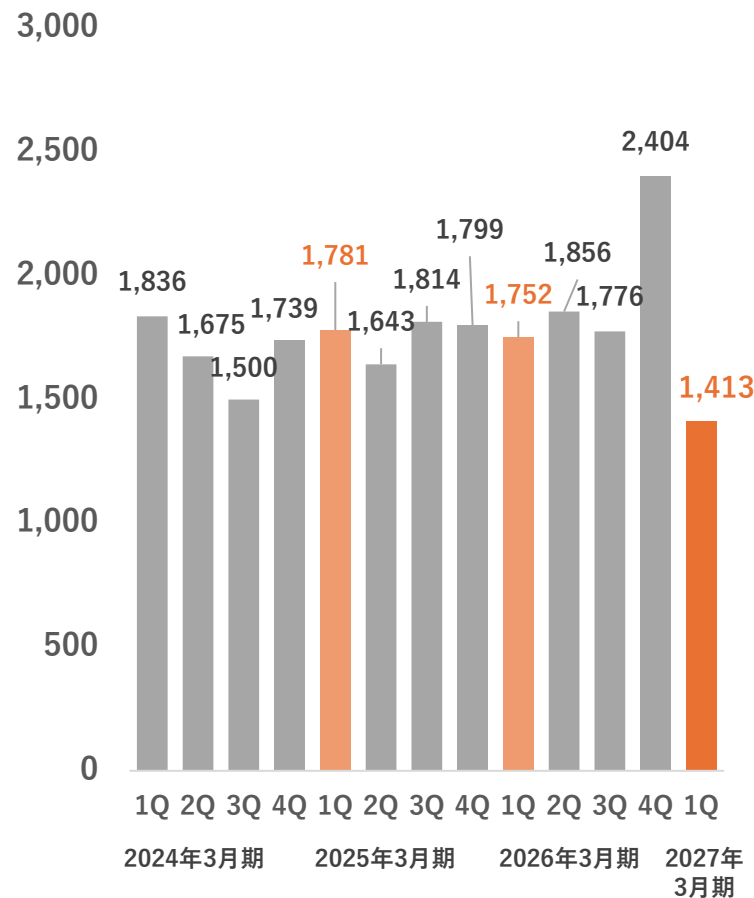
事業セグメント別概況ー通信建設テックー

Overview by Business Segment

04-2

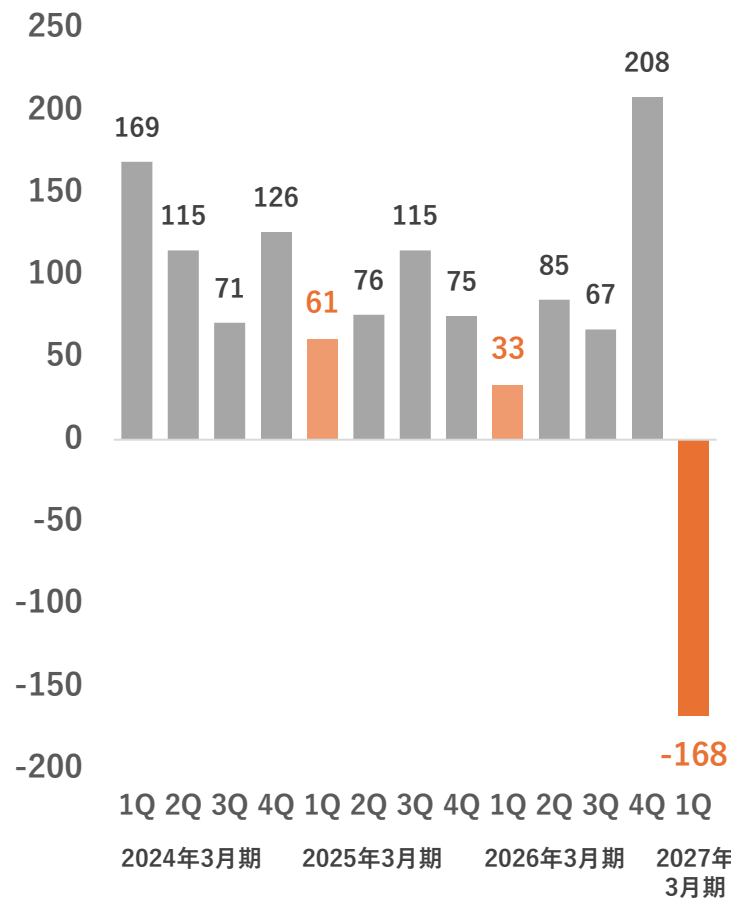
■四半期別売上高推移

(百万円)



■四半期別営業利益推移

(百万円)



2027年3月期1Q業績

売上高

1,413百万円
(前年同期比△19.3%)

営業利益

△168百万円
(前年同期比－%)
※前年同四半期の営業利益：33百万円

- 新規獲得案件の施工前プロセス（調査・契約等）先行による一時的な検収端境期や前4Q大型案件の反動減等に加え、体制強化（人材・拠点投資）の固定費が先行し減益
- 通信キャリア向け屋内電波対策工事を着実に推進するとともに、「ROBONARA」や新規顧客開拓を通じたストック型ビジネスの積み上げを推進
- ブランチテクノとの拠点連携による中部・東海での施工体制強化が進むほか、再エネ関連案件の仕込み・施工プロセスも順調に進展
- 1Q中に準備を進めた豊富な新規案件群が2Q以降に順次本格的な施工・検収フェーズへ移行し、今後の売上回復・拡大へ寄与する見通し

■再生エネルギー関連売上高四半期推移及び受注残高

(百万円)

1,500

1,000

500

0

6

1Q

118

2Q

14

3Q

625

4Q

76

1Q

2026年3月期
売上高2027年3月期
売上高

877

6案件

2026年3月末
受注残高

1,340

8案件

2026年6月末
受注残高

2027年3月期1Q 再エネ関連業績

売上高

76百万円

(2027年3月期1Q)

受注残高

1,340百万円

(2026年6月末時点)

- 当第1四半期は下期以降の検収・引き渡しに向けた案件の仕込みや施工を順調に推進し、売上高は76百万円（前年同期6百万円）を計上
- 脱炭素社会の実現に向けた需要拡大を背景に、2026年6月末の受注残高は1,340百万円（8件）へ着実に積み上がっており、下期偏重の業績を強力に支える基盤が整う
- 2026年8月現在において41件の引き合い案件※（受注内諾・商談中）が進行しており、今後も継続的な受注積み上げと中長期的な業績拡大を見込む

※引き合い案件数：受注内諾案件、商談中案件の合計

プレスリリース

2026.4.10

バディネット、テス・エンジニアリング株式会社と 蓄電所開発事業における業務提携契約を締結



株式会社バディネットと、テス・エンジニアリング株式会社は、蓄電所開発事業の案件組成から施工体制の構築まで、包括的な協力体制を築くことを目的として、業務提携契約を締結いたしました。

本提携は、次世代エネルギーインフラの普及による脱炭素社会（GX）の実現と地域の災害対応力強化を目的としています。

テス・エンジニアリングの事業開発力や顧客網と、バディネットの全国規模で一気通貫した施工・保守体制を融合。蓄電所の案件組成から設計、建設、運用保守まで包括的な協力体制を築き、社会実装を加速させます。

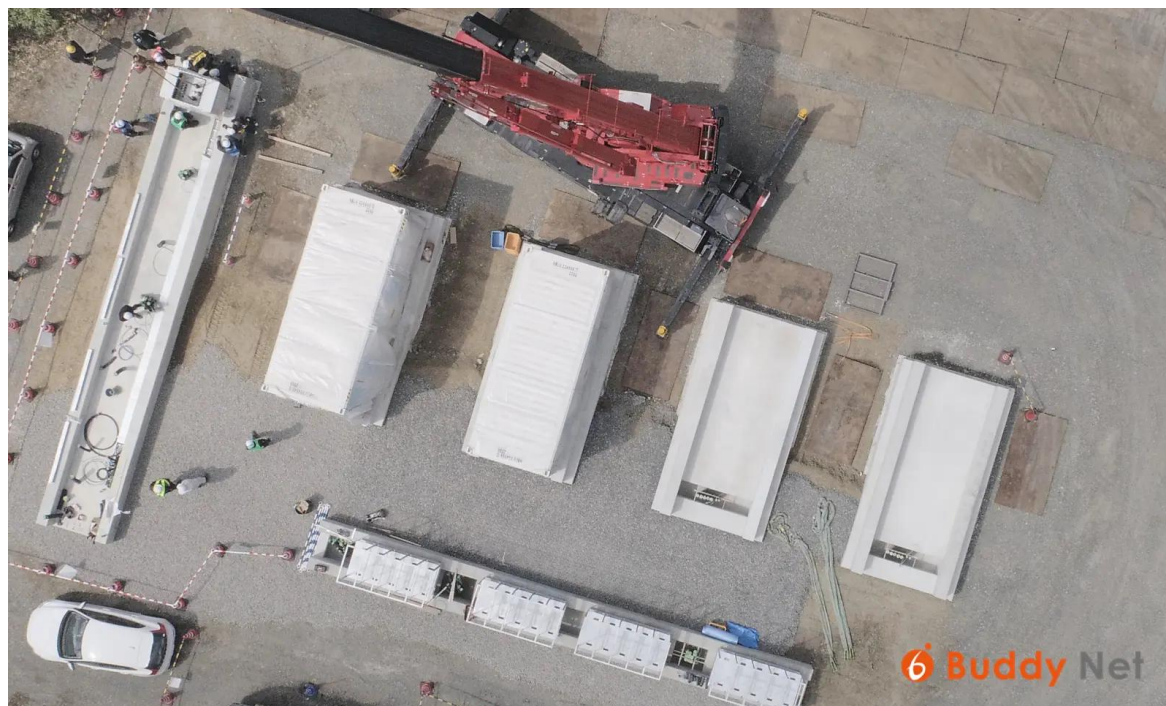
■ 本業務提携契約の内容について

- ・ 蓄電所の新規案件の開発に係る相互協力
- ・ 建設工事の発注又は蓄電池等の機器の発注
- ・ 蓄電池事業に係る現地調査、設計及び営業活動等の助勢
- ・ 蓄電池事業の紹介
- ・ その他、両社が合意した事項

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/business-partnership-260410/>

■ テス・エンジニアリング株式会社との共同EPCプロジェクト紹介：島根県内における系統用蓄電池（蓄電所）建設



島根県内の敷地（約500㎡）を活用し、出力2MW、蓄電容量約8MWhを誇る高圧連系の系統用蓄電池システムを建設するものです。

当社は、用地選定からシステム稼働に向けた各種検査に至るまでの建設プロセス（EPC領域）をワンストップで担当しております。起工測量や仮設設置に始まり、蓄電池およびPCS（パワーコンディショナ）の基礎工事、大型クレーンを用いた主要機器の搬入・据付、配線作業、さらには外構工事に至るまでの主要工程を包括して担っております。

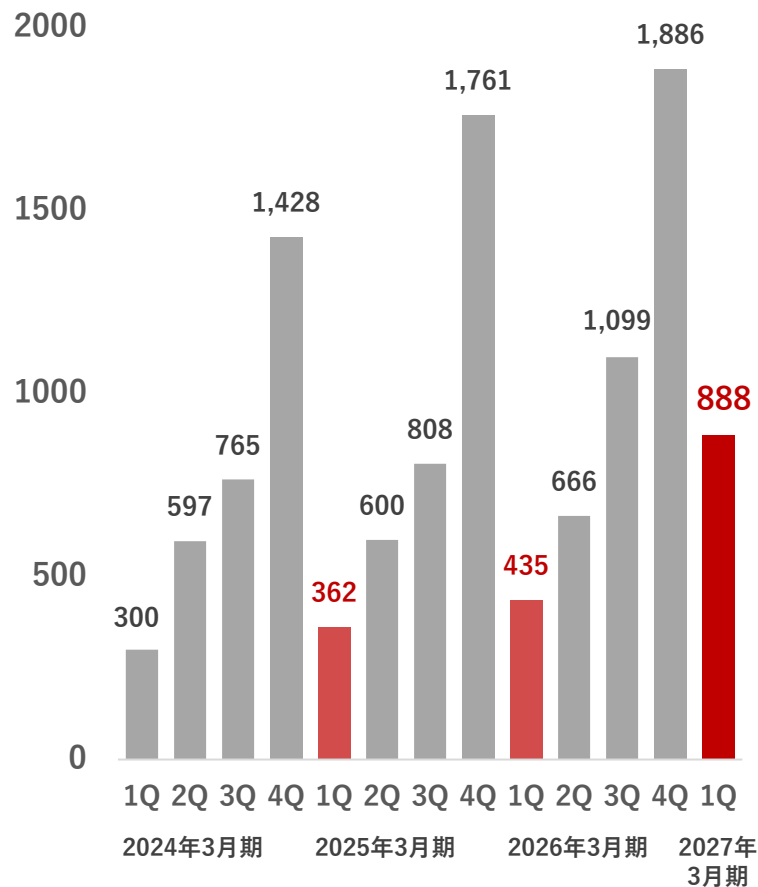


事業セグメント別概況 – HPC事業 – Overview by Business Segment

04-3

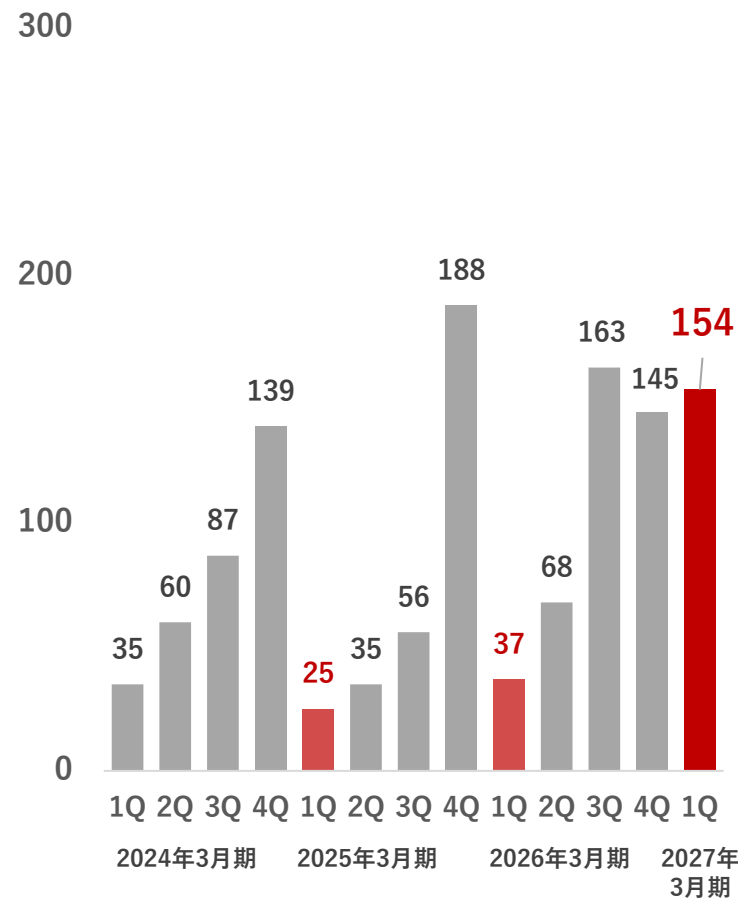
■四半期別売上高推移

(百万円)



■四半期別営業利益推移

(百万円)



2027年3月期1Q業績

売上高

888百万円
(前年同期比 + 104.1%)

営業利益

154百万円
(前年同期比 + 317.6%)

- 生成AI・LLMの社会実装加速に伴い、大学・官公庁・企業等の強い投資意欲を背景に、グローバル調達競争が激化するなか、最新製品の迅速な製品化・先行展開を推進し大型案件の受注を拡大
- メモリ・SSD等の部材高騰に対し、先行部材確保と厳格な納期トラッキング、ソフトベンダー連携等で確実に出荷へ繋げ、競合優位性の高いカスタムソリューションの展開で利益率も向上
- 学会やAI展示会等を通じた先端研究機関との強固なリレーションを基盤に、最新ハードウェアを迅速に取り入れ、2Q以降も順調な拡大を推進

学会・展示会への参加
【機器展示含む】

第28回理論化学討論会

2026年5月実施

第31回計算工学講演会

2026年6月実施

2026年度 人工知能学会全国大会（第40回）

2026年6月実施

第26回日本蛋白質科学会年会

2026年6月実施

商品取扱開始

AI for Science 向け研究者用 GPUワークステーションと
GPUラックマウントサーバの提供を開始

2026年5月～

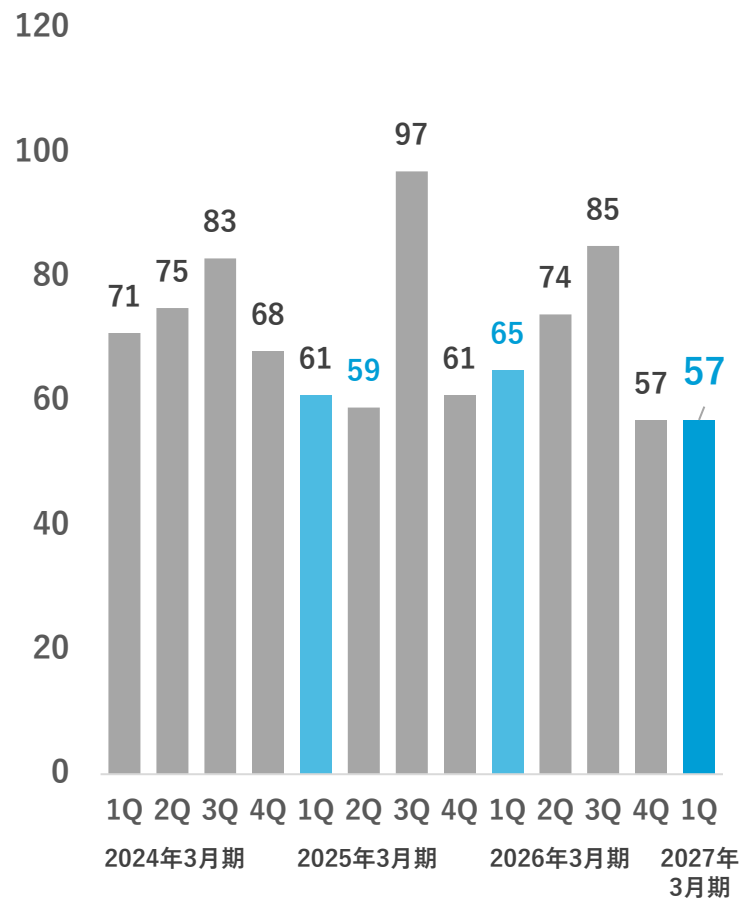
事業セグメント別概況－その他の事業－ Overview by Business Segment

04-4

※下記の四半期別売上高推移及び営業利益推移のグラフの業績は「旅館事業」の業績を掲載しています。

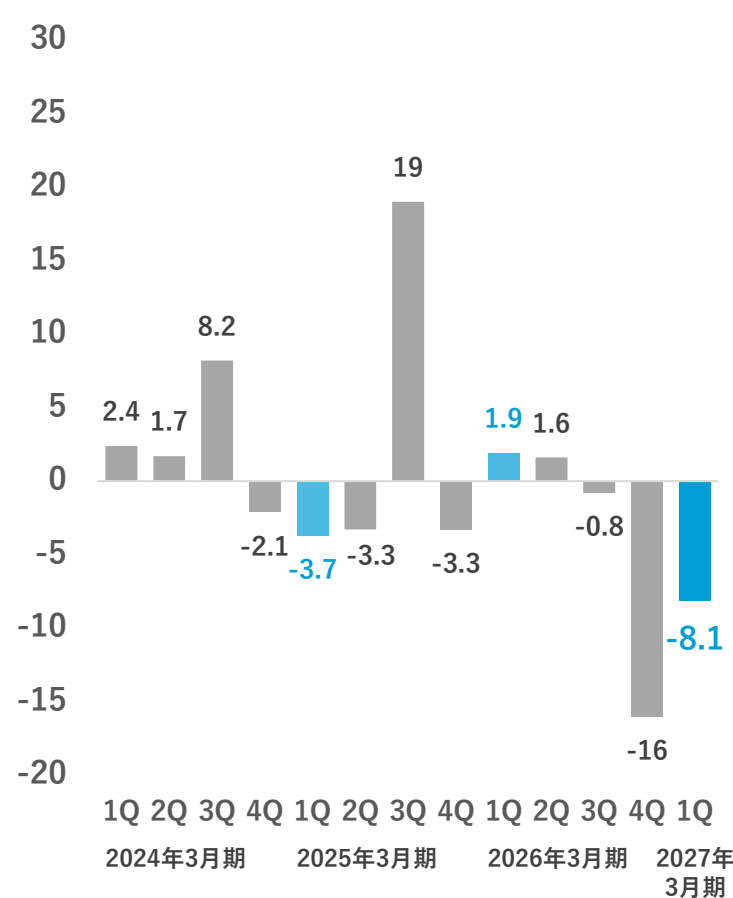
■四半期別売上高推移

(百万円)



■四半期別営業利益推移

(百万円)



2027年3月期1Q業績

売上高

57百万円
(前年同期比△15.2%)

営業利益

△8百万円
(前年同期比 - %)
※前年同四半期の営業利益：△1.5百万円

※2027年3月第1四半期における「不動産事業」の収益貢献はありません。

- 物価高による個人消費の伸び悩みや地域的な観光需要低下、野生動物出没の影響等で減収。コスト抑制に努めるも減収影響が利益を圧迫
- 露天風呂付客室リニューアルの活用に加え、庭園管理等の設備拡充により顧客満足度・体験価値を高め、Webマーケティング強化で需要獲得を推進
- 人件費や水光熱費等の機動的なコストコントロールと効率運営を徹底し、厳しい環境下における収益性の維持・改善に注力

改修工事を進め、収益性・顧客満足向上施策を推進



※リニューアルした客室「真珠」



露天風呂付きの客室を増室

人気の高い、露天風呂付きの客室を増室
客単価の向上により更なる収益性の向上を期待



ドッグランをリニューアルし 顧客満足度の向上を図る

屋内・屋外ドッグランの整備・拡張を進め、
利便性を高める事により、顧客満足度の向上を推進



その他の資料(連結財務諸表概要等) Appendix (Financial Summary)

連結貸借対照表

	2026/3末	2026/6末	増減額	前期末増減率
流動資産	16,769	18,208	+1,438	+8.6%
現預金	5,961	7,383	+1,422	+23.9%
売掛債権	5,264	4,310	△ 953	△ 18.1%
棚卸資産	5,268	5,705	+437	+8.3%
固定資産	995	991	△ 3	△ 0.4%
資産合計	17,764	19,200	+1,435	+8.1%
流動負債	10,637	11,873	+1,235	+11.6%
短期借入金	5,062	6,022	+960	+19.0%
一年以内返済予定長期借入金	945	929	△ 16	△ 1.8%
一年以内償還予定社債	60	60	—	—
買掛金	3,105	3,281	+175	+5.6%
固定負債	2,158	2,054	△ 104	△ 4.8%
長期借入金	1,761	1,644	△ 117	△ 6.7%
社債	180	180	—	—
負債合計	12,796	13,927	+1,131	+8.8%
株主資本	4,414	4,679	+264	+6.0%
資本金	100	100	—	—
利益剰余金	3,533	3,797	+264	+7.5%
純資産合計	4,968	5,272	+304	+6.1%
負債・純資産合計	17,764	19,200	+1,435	+8.1%

【旺盛な需要に対応する先行部材確保と現預金の増加】

生成AI等の急激な需要拡大（メモリ・HPC）に対応する先行的な在庫確保により棚卸資産が437百万円増加。売上回収の着実な進捗等に伴い現預金も1,422百万円増加し、流動資産全体で1,438百万円増加

【事業規模拡大に伴う運転資金需要への機動的な対応】

大幅な売上成長（前年同期比+148.5%）および部材手配等の運転資金需要に対応するため、短期借入金（+960百万円）や買掛金（+175百万円）が増加し、流動負債全体で1,235百万円増加

【約定返済の着実な進展による長期負債の減少】

拡大する運転資金には短期借入等で柔軟に対応する一方、既存の長期借入金は順調に返済（△117百万円）が進み、固定負債全体で104百万円減少

【過去最高益達成に伴う利益剰余金の積上げと財務基盤強化】

過去最高規模の四半期純利益（親会社株主に帰属する四半期純利益264百万円）の計上により利益剰余金が増加し、純資産は5,272百万円（+304百万円）へ拡大。手元流動性を確保しつつ強固な財務基盤を構築

連結損益計算書

	2026/3 1Q	2027/3 1Q	増減額	前期 増減率
売上高	4,373	10,866	+6,493	+148.5%
売上原価	3,496	9,530	+6,034	+172.6%
売上総利益	876	1,335	+459	+52.4%
販売費及び一般管理費	774	895	+120	+15.5%
営業利益	101	440	+338	+333.8%
営業外収益	22	40	+18	+83.1%
営業外費用	24	31	+6	+27.0%
経常利益	99	449	+350	+353.8%
特別利益	—	7	+7	—
特別損失	—	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	99	457	+358	+361.9%
法人税等合計	26	160	+133	+507.4%
四半期純利益	72	297	+224	+309.1%
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	32	+24	+291.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	64	264	+200	+311.4%

【売上高：AI関連需要の拡大を捉えたメモリ・HPC事業の牽引により大幅増収】
生成AI拡大による需給ひっ迫にともなうメモリ市況の変化、ならびに研究機関や民間企業のAI開発・高度計算基盤への投資拡大に対し、先行部材確保と大型案件獲得が奏功。売上高は10,866百万円（前年同期比+148.5%）と過去最高規模を達成

【営業利益：先行投資に伴う費用増を大幅吸収し、前年同期比約4.3倍へ拡大】
人材・体制強化に伴う販管費増（895百万円、前年同期比+15.5%）があったものの、大幅な増収効果に加え、タイムリーな販売価格適正化や適切な在庫運用による粗利率確保が寄与し、営業利益は440百万円（前年同期比+333.8%）に急拡大

【四半期純利益：1Qとして過去最高規模となる264百万円を達成】
主力事業での大幅な収益性向上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は264百万円（前年同期比+311.4%）を達成。売上高およびすべての段階利益において前年同期を大幅に更新し、過去最高規模の業績を実現



取締役会長 堀 礼一郎

代表取締役社長 兼 経営戦略本部長
白鳥 俊昭

異動の内容（2026年6月30日付）

氏名	新役職	旧役職
堀 礼一郎	取締役会長	代表取締役社長
白鳥 俊昭	代表取締役社長 兼 経営戦略本部長	取締役 兼 経営戦略本部長

経営体制変更の目的

- ・グループの経営体制の強化と役割分担の最適化による持続的な企業価値の向上
- ・堀会長：主要事業の成長を最前線で牽引する事に注力（株式会社バディネットの代表取締役社長に復帰）
- ・白鳥社長：グループの持続的成長を支えるため、持株会社の強固な経営・管理体制の構築に注力

参考資料

Appendix

商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1 億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	460名（連結 2026年6月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	取締役会長 堀 礼一郎 代表取締役社長 経営戦略本部長 白鳥 俊昭 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 取締役（社外） 中川 英之 取締役（社外） 浦 勝則 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 上林 三子雄 監査役（社外） 西田 史朗
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業（ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバンを買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
	2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収
	2025.3	株式会社バディネットが株式会社リーバンと吸収合併

Mission

持続可能な未来社会をITで実現する

For a sustainable future with IT

Vision

先端技術の追求

先端技術を追求し、製品、サービスの提供及び経営におけるITの最先端企業となります。

持続型企業の形成

ITを駆使して、法令を遵守し、持続的成長が可能な企業形成を推進します。

弛みない革新への挑戦

探究、挑戦することを恐れず、忘れず、革新的なデザインとITの力で社会に革新をもたらします。

新しい価値の創出

日々刻々と変化する社会において、ITを活用した新しい価値を創出し続けます。



メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット
株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）
※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併



H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P C テック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

【基本的な考え方】

AKIBAホールディングスは、「持続可能な未来社会をITで実現する」ことをミッションとし、ITを通じて豊かな持続可能な情報化社会の実現に貢献してまいります。また私たちAKIBAホールディングスの使命とは、事業を通じた社会貢献と法令の遵守だけではなく、企業倫理に則った公正かつ適切な事業運営を通じて、地球環境及び人類の持続可能な発展に貢献することであると考えています。この使命を果たすべく、日々取り組みを進めています。

【マテリアリティ（重要課題）】

AKIBAホールディングスは、社会に価値ある未来を創造するIT企業グループとして、「新しい価値を創造するために、あくまで先端技術への追求と弛みない革新への挑戦をする」ことを通じて、地球環境及び人類の持続可能な発展に貢献します。



環境保全

経営の効率化や省エネルギー化で環境負荷の低減に貢献



社会貢献

IT技術による積極的な社会貢献活動



人材育成及び 労働環境の醸成

社員が常に世の中の新しい価値を創造する



法令遵守

法令・社会規範及びその精神を遵守



公正取引

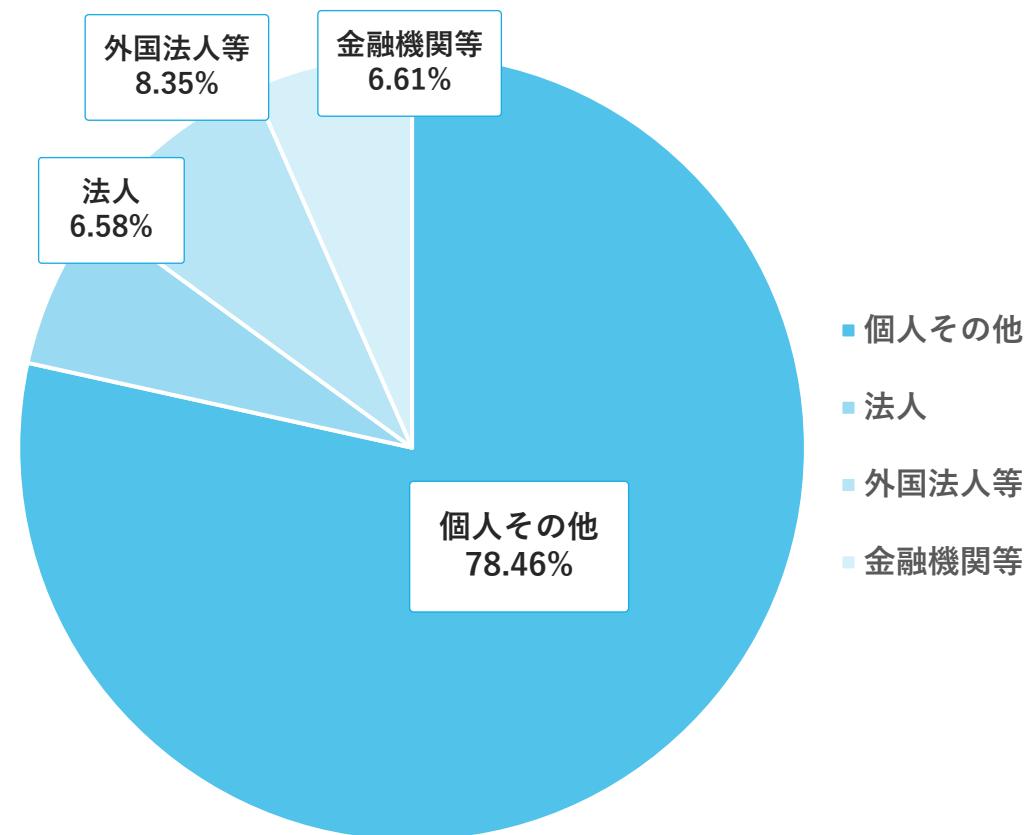
透明性の高い適正な取引

	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期	第44期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高(千円)	12,574,151	14,742,554	16,166,841	15,007,149	15,848,974	18,272,045	26,782,643
経常利益(千円)	636,377	682,843	711,268	1,031,089	844,773	662,301	1,372,658
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	654,580	345,839	382,352	702,077	292,567	112,268	883,053
包括利益(千円)	702,237	396,663	426,161	753,768	367,902	183,053	990,318
純資産額(千円)	1,850,742	2,247,178	2,673,308	3,427,077	3,794,979	3,978,033	4,968,351
総資産額(千円)	6,958,007	8,380,543	9,177,714	10,136,167	11,468,317	13,627,886	17,764,969
1株当たり純資産額(円)	184.75	222.36	264.45	340.36	372.31	384.53	480.67
1株当たり当期純利益金額(円)	71.25	37.65	41.62	76.44	31.85	12.22	96.14
自己資本比率(%)	24.4	24.4	26.5	30.8	29.8	25.9	24.9
自己資本利益率(%)	47.8	18.5	17.1	25.3	8.9	3.2	22.2
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△246,303	948,655	△147,249	△20,468	△40,663	△374,342	△30,808
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	366,840	△183,351	△112,089	△393,662	△212,897	△108,877	△50,048
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	881,034	396,249	253,343	81,518	971,043	1,696,024	666,743
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	2,571,439	3,732,992	3,728,478	3,396,300	4,113,909	5,325,760	5,911,646
従業員数（外、平均臨時雇用者数）（人）	126(97)	164(73)	196(97)	221(119)	241(128)	266(105)	279(144)

【株式基本情報】

上場証券取引所：東京証券取引所スタンダード市場
証券コード：6840
発行可能株式総数：27,328,000株
発行済株式総数：9,192,560株
単元株式数：100株
株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

【株主構成：2026年3月末時点】





AKIBA HOLDINGS

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません。